

授業概要

子どもの正常な成長発達および病的状態の発見、対応について具体的事例、資料にもとづき講義する

授業計画

| | |
|--------|--------------------------|
| 第 1 回 | 小児保健、福祉の社会的背景 |
| 第 2 回 | 子どもの形態的成長の観察の仕方 |
| 第 3 回 | 子どもの精神、運動発達のみかた |
| 第 4 回 | 子どもの発達障害のみかたと対応 |
| 第 5 回 | 子どもの日常生活（生活環境） |
| 第 6 回 | 子どもの日常生活の発達（睡眠、排泄、あそび） |
| 第 7 回 | 子どもの栄養と食事の実際（ミルク、離乳食） |
| 第 8 回 | 健康状態の把握 |
| 第 9 回 | 一般症状の把握と対応（発熱、けいれんを中心に） |
| 第 10 回 | 一般症状の把握と対応（下痢、嘔吐、脱水を中心に） |
| 第 11 回 | 子どもがかかる感染症と対応 |
| 第 12 回 | 予防接種の目的と実際 |
| 第 13 回 | 虐待児の発見と対策 |
| 第 14 回 | 子どもの事故の概要と予防 |
| 第 15 回 | 子どもの事故への具体的対応 |
| 第 16 回 | 筆記試験 |

到達目標

子どもおよび親を援助できる専門的能力を身につける

履修上の注意

講義内容について復習を促す目的で各授業ごとに小テストを行う

出席、遅刻については大学の基準に従う

授業中他の学生に迷惑あたる行為（私語等）がみられた時には退席を促す

予習復習

授業ごとに行う小テストは復習を意味します

なお15回目の最後の授業時に全体の重要項目を再授業します

予習は次回講義範囲を示すことにより教科書を事前に読むことを促します。

評価方法

期末に筆記試験により評価する 評価基準は大学の基準に従う

授業中に行う小テストも参考とする

テキスト

- 教科書名：『こどもの保健実習』
- 著者名：兼松 百合子
- 出版社名：同文書院